平成29年度地域公共交通活性化シンポジウムin関西

過疎地域におけるバスを使う文化づくり

兵庫県　宍粟市

森林創生
宍粟
森と共に生きるまち
しそう

兵庫県宍粟市の概要

沿革・地勢

- 平成17年4月1日に４町合併
- 淡路島より広い面積
- 1000m級の山々
- 一級河川揖保川、千種川

古　事

- 日本酒発祥の地（播磨国風土記）
- 黒田官兵衛飛躍の地（宍粟郡の領主）

人口・高齢化率

H17	H27	H37
43,302人	38,537人	34,056人
25.7%	31.3%	36.0%

アクセス

- 姫路から路線バスで　約50分
- 神戸からハイウェイバスで　約１時間30分
- 大阪からハイウェイバスで　約２時間

公共交通再編の概要

■背　景

利用人員の減少

利便性の低下

要　因

交通空白地の存在

外出支援サービス事業の適正化

距離程運賃による経済的負担拡大

外出抑制

交通空白地の拡大

■基本的な考え方

- 「住んでいる地域でいつまでも暮らせる」
  ～既存の概念に捉われない　全く新しい公共交通システムの構築～

抜本的な公共交通の再編

再編前の交通体系①

路線バス

- ３路線（４条運行）249,924人　⇒　145,570人（約４割減少）

※乗車人員　平成23年度　⇒　平成27年度

コミュニティバス

- もしもしバス　３路線（４条委託　事前予約制デマンド　定路線型）
- 思いやり号　１路線（78条運行　地域運行　定時定路線型）
- 波賀ミニバス　１路線（78条運行　直営運行　定時定路線型）
- はちはちバス　１路線（４条委託　定時定路線型）

10,449人　⇒　9,961人（約0.5割減少）

※乗車人員　平成23年度　⇒　平成27年度

乗車運賃

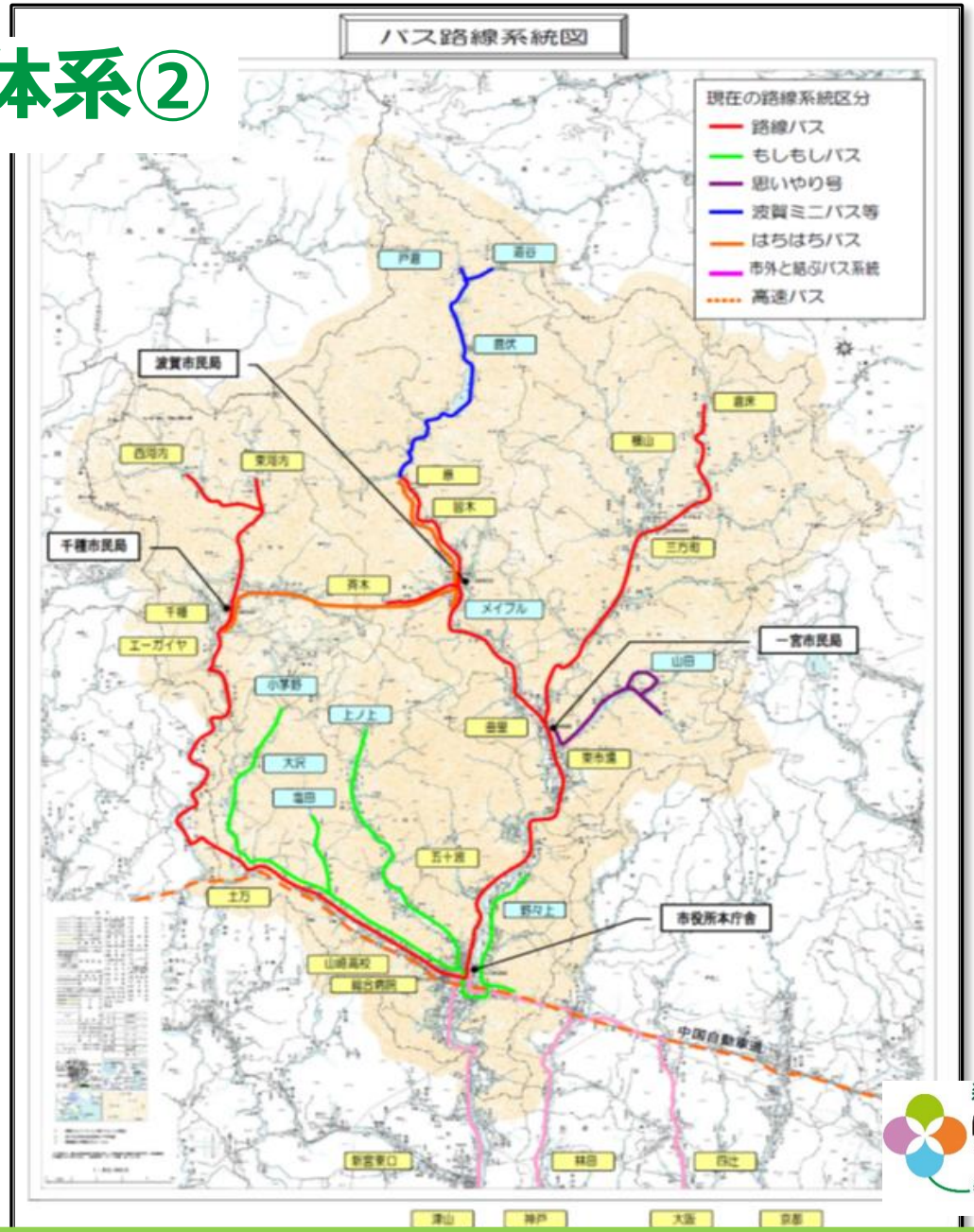
- 距離程運賃　市内最高1,360円

森林創生 宍粟 森と共に生きるまち しそう

再編前の交通体系②

- 路線バス

- コミバス



再編計画策定の過程①

計画策定着手

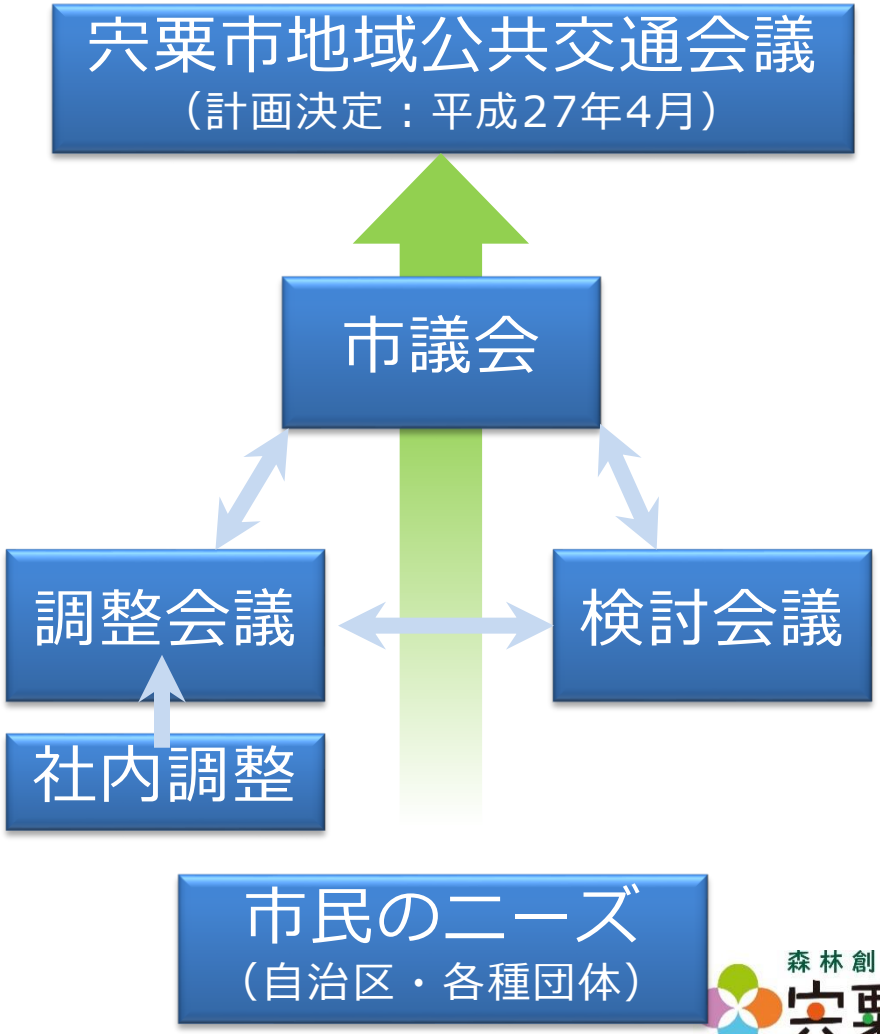
- 平成25年12月
  ※宍粟市独自計画

策定の目的

- 交通空白地の解消
- 外出支援サービス事業の見直し
- 運賃の公平性確保

策定の手法

- ボトムアップ方式



【参考】

市議会	（調査特別委員会）	
検討会議	（市役所内部意思決定組織）	市長、副市長、企画、財政、福祉、交通
調整会議	（運行事業者との調整組織）	副市長、運行事業者、福祉、交通

森林創生 宍粟 森と共に生きるまち しそう

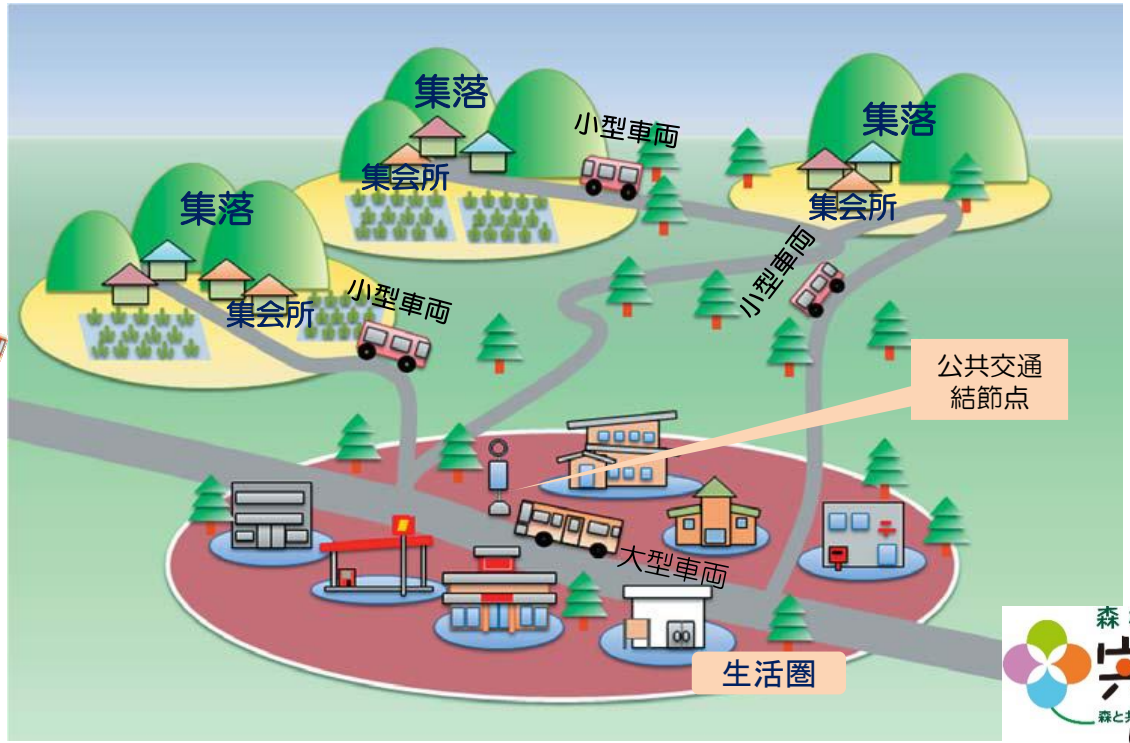
再編計画策定の過程②

■交通空白地の定義

- 自治会集会施設を中心として300m以内に路線がない集落

■交通ネットワーク構築

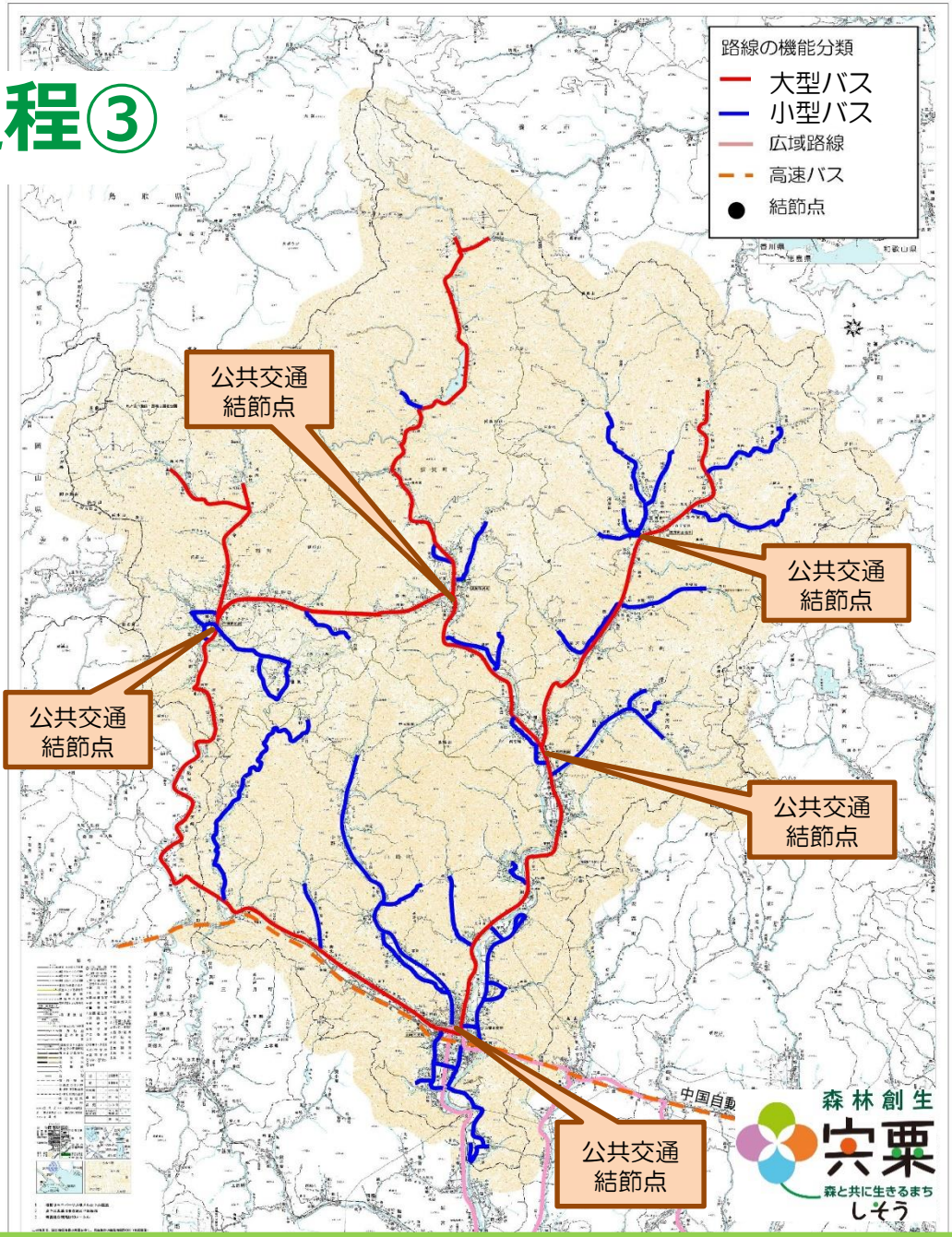
- 集落と結節点（生活圏）　小型車両
- 結節点と結節点　大型車両



森林創生
宍粟
森と共に生きるまち
しそう

再編計画策定の過程③

■交通ネットワーク



再編計画策定の過程④

再編計画の要点

交通空白地の解消	29自治会	0自治会
運行方法の統一	コミュニティバス	市内全域路線バス
バス路線の拡充	大型バス3路線	大型バス4路線
	小型バス6路線	小型バス25路線
バス乗車運賃を定額化	市内最大1,360円	市内均一200円
乗車券の低価格化と乗車区間フリー化	定期券（学生） 25,000円／月 区間利用	乗車券 5,000円／月 市内区間フリー
乗継制度の導入	市内の目的地までは、乗継回数に制限がなく 均一運賃で広域移動が可能	
外出支援サービスの適正化	利用対象者の見直し	

森林創生 宍粟 森と共に生きるまち しそう

参考①：路線機能

機　能	役　割	運行形態	利用形態	路線数
幹　線	旧4町を結ぶ路線	大型車両 毎日 定時定路線型	広域移動 （通勤･通学）	3
支　線	一部の地域と幹線を結ぶ路線	小型車両 平日　2～7往復/日 定路線型 定時定路線型	日常生活 （通勤･買物）	6

機　能	役　割	運行形態	利用形態	路線数
幹　線	旧4町を結ぶ路線	大型車両 毎日 定時定路線型	広域移動 （通勤・通学）	4
支　線	地域と幹線を結ぶ路線	小型車両 週１日～平日 ３～４往復/日 定時定路線型	日常生活 （通勤・買物）	25

森林創生 宍粟 森と共に生きるまち しそう

参考②：運賃体系

区　間	乗　継	運　賃
最北部～山崎待合所	コミバス～路線バス	合計1,360円

区　間	乗　継	運　賃
市内全域	目的地まで乗継可能	200円

券　種	運　賃
学　生 1か月 区間利用	25,000円

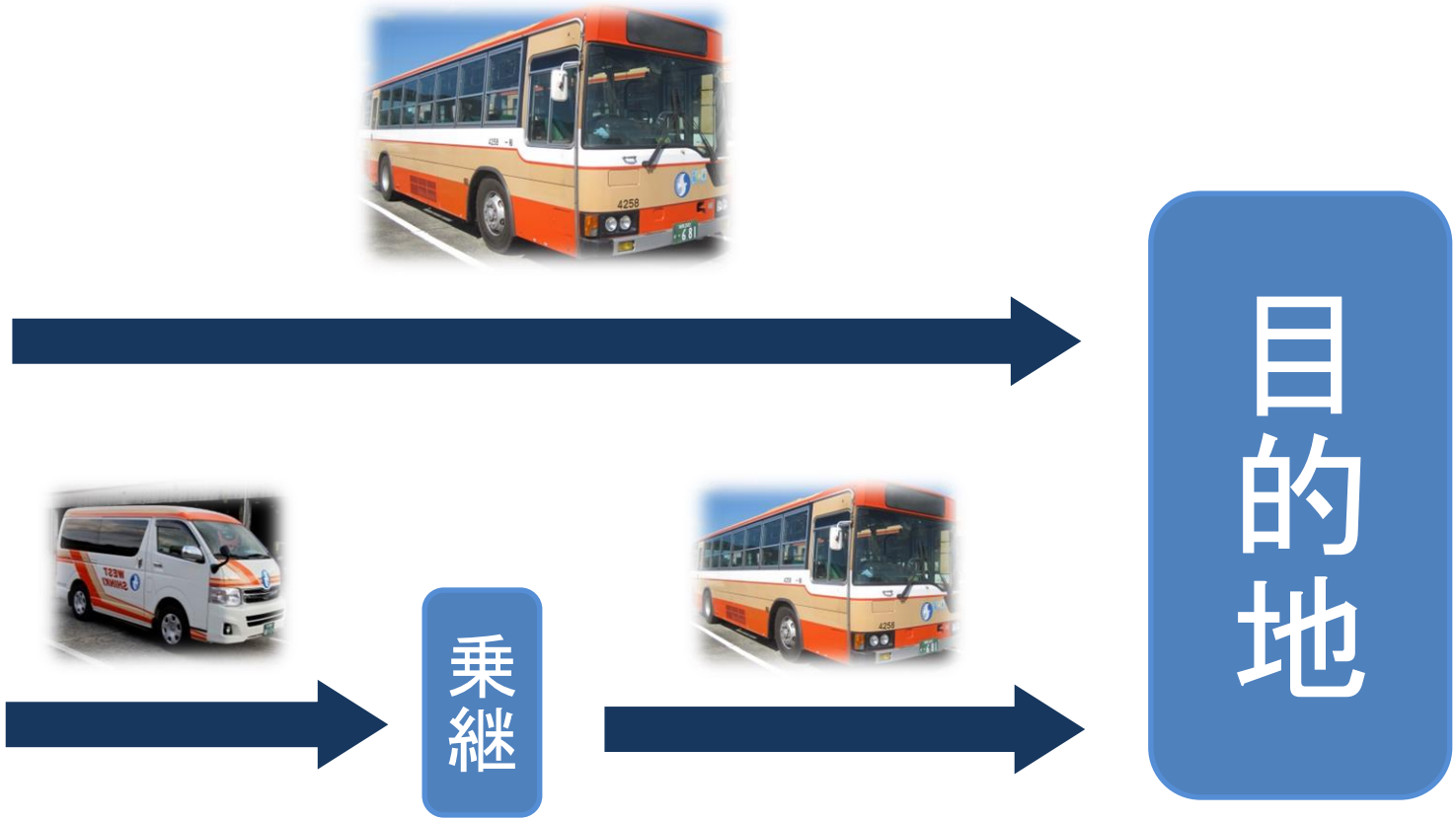
券　種	運　賃
1か月 市内区間フリー	8,000円 市民は独自制度により 5,000円

※H29.4.1より5,000円に運賃改定

森林創生 宍粟 森と共に生きるまち しそう

参考③：乗継制度

バスを乗り継いでも市内の目的地まで**２００円**で乗車



再編計画策定の過程⑤

■目標乗車人員及び運行計画額

単位（人：千円）

目標乗車人員	運行経費	運賃収入	運行欠損	補助金	
				国　県	市
200,000	244,000 (146,690)	40,000 (89,454)	204,000 (57,273)	31,600 (21,815)	172,400 (28,092)

※　かっこ書きは、平成26年度公共交通維持確保対策事業補助金実績ベースの参考数値

■市の将来計画との整合性

- 第２次宍粟市総合計画（平成２８年３月）
  人口減少対策の最優先項目に公共交通のネットワーク化を明記

森林創生 宍粟 森と共に生きるまち しそう

再編計画策定の過程⑥

■路線の見直し基準

大型バス	平均乗車密度　２人以上
小型バス	１便あたりの利用人数　１．５人以上

■路線の見直し

- 運行開始から１年ごとに路線を評価し、
  利便性の向上を図るための見直し
- ３年を目途に将来的に維持できるネットワークの構築
  （減便、廃止を含む）

■地域の役割の明確化

乗って利用しなければ地域の大切な移動手段であるバスがなくなり、
地域の衰退が加速する。
次の公共交通の再編はない。　※公共交通再編計画抜粋

森林創生 宍粟 森と共に生きるまち しそう

再編による運行に向けて①

■公共交通再編による運行開始日

計　画	実　施
平成28年4月1日	平成27年11月2日

■役割分担

運行事業者	運行全般
市	地域及び関係機関との調整、周知、啓発、利用促進

路線バスだから、コミバスだからは関係なし！

それぞれの強みを生かし、**新しい公共交通のシステムづくり**

森林創生 宍粟 森と共に生きるまち しそう

再編による運行に向けて②

㈱ウエスト神姫

- ダイヤ編成　（大型バス4路線、小型バス25路線）
- 乗務員の確保　（採用条件を緩和、女性乗務員２名採用）※H29.4　3名

  ⇒　地域住民の雇用拡大に寄与
- 運行開始前２か月間の集中教育
- 公安委員会、運輸局との協議調整、法手続き
- バス停の新設、時刻表の張替え　（市内約４００か所）
- 乗車券、回数券などの製作
- 音声合成の制作
- 小型バス車両の購入　（８台、納車まで半年以上）
- 乗務員の待遇改善　（更衣室や休憩室の整備）　など

※平成28年度再編補助金
時刻表等　1,120千円
バス停　9,315千円
音声合成　4,047千円

森林創生 宍粟 森と共に生きるまち しそう

再編による運行に向けて③

- ㈱ウエスト神姫
  - 社内教育

再編による運行に向けて④

篠陽タクシー有限会社

- 乗合バス事業への新規参入

  タクシー事業との相違点、社内教育、運行上の苦労

- タクシー事業者の強み

  小型車両の機動力、利用者との信頼関係（顔なじみ）

- 地元企業としての責務

  過疎地域の移動手段の受け皿、雇用の維持

森林創生 宍粟 森と共に生きるまち しそう

再編による運行に向けて⑤

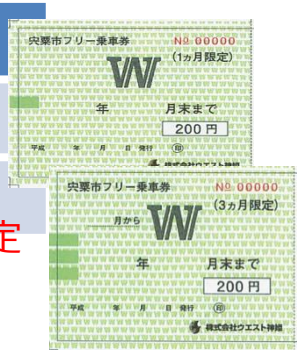
宍粟市

- 宍粟市民価格の設定　（市から運行事業者に差額補助で実現）

区　分	通常運賃	宍粟市民
1か月	8,000円	5,000円
3か月	22,800円	14,200円

※H29.4.1より5,000円、14,200円に運賃改定

※　平成28年度　12,000千円　、平成29年度　284千円

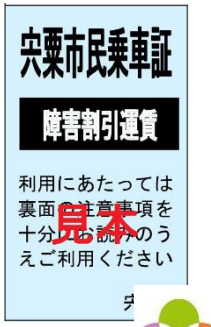


- 運行事業者の乗車券を市役所窓口で販売
  （市が通常運賃で買取り、市民価格で販売）

※　平成28年度　8,238千円　、平成29年度　6,008千円

- 路線バスで精神障がい者手帳所持者も障害者割引適用
  （市から運行事業者に差額補助で実現）

※　平成28年度　2,139千円　、平成29年度　120千円



森林創生
宍粟
森と共に生きるまち
しそう

再編による運行に向けて⑥

- 神姫バス山崎待合所隣接地に
  自転車駐輪場整備
  駐輪台数：150台(無料)
  事業費：10,869千円

- バス乗継結節点の整備
  ２か所
  事業費：905千円

再編による運行に向けて⑦

- ケーブルテレビで『公共交通の利用のしかた』の動画を放送

- 市民を対象に『路線バス利用方法説明会』開催
- 希望する団体を対象に『公共交通出前講座』実施
- 市役所全職員(正規、臨時）に再編計画と利用方法の説明会開催

地域の協力

- 時刻表作成（運行事業者、市）
- 時刻表配布（地域）

森林創生
宍粟
森と共に生きるまち
しそう

再編による運行に向けて⑧

平成27年11月2日　運行開始

森林創生
宍粟
森と共に生きるまち
しそう

運行開始後の取組み①

更なる利用促進の取組み

- 公共交通利用推進員（モニター）　87名委嘱（市）

  体験乗車企画　バスに乗る意識の醸成

  ※　平成28年度　875千円　、平成29年度　405千円

- 156自治会長に毎月バスの利用状況を提供（市）

  広報にも定期的に掲載

- １日乗車券をH28.9より発売開始（民間事業者、運行事業者、市）

  500円／日で乗り放題

  市内観光事業者とタイアップした割引特典の付与

- 市外の学生への乗車券補助（市）

  通常運賃　8,000円／月を　5,000円に

  ※　平成28年度予算　300千円

森林創生 宍粟 森と共に生きるまち しそう

運行開始後の取組み②

- 路線バスの愛称を『しーたんバス』として親しみを演出（市）
- 幼稚園・保育所を対象とした公共交通MM　(運行事業者)『バスにのってたのしそう！』
- しーたんバッチの作成(運行事業者)

▲保育所

▲診療所バス停

▲市役所市民局バス停

路線バス結節点に木製ベンチ設置（地域）

兵庫県立山の学校より18脚寄贈

自治会会計より回数券、乗車券の購入（地域）

バスを守る取組みとして無償配布

運行開始から１年間の利用人員

利用者数
66.8%増！

内　容	目　標	H27.11~H28.9	H28.10~H29.9
利用人員	200,000人	219,071人	259,465人
大型バス平均乗車密度	2.0人／便	2.3人～4.5人	1.4人～3.8人
小型バス利用者数	1.5人／便	0.92人	1.10人
外出支援サービス事業	登録者数前年比　△27.7% 事業費12,000千円削減		

森林創生
宍粟
森と共に生きるまち
しそう

運行開始から１年間の財政負担

■平成28年度　決算額

（単位：千円）

目標乗車人員	運行経費	運賃収入等	運行欠損	補助金	
				国県等	市
200,000	193,142	47,891	145,251	42,302	102,949

※平成28年度は、再編後11か月分の補助金額

※　参考：平成29年度　予算額

（単位：千円）

補助金	
国県等	市
44,475	165,140

宍粟市一般会計予算の義務的経費を除く経費の1.6%を占める

森林創生 宍粟 森と共に生きるまち しそう

運行開始から２年　見えてきた課題①

■利用人員を増やす取組み

【大型バス】

- 平日の利用人員は顕著に推移
- 交流人口の増加をめざした土日運行の充実
- バス車両の低床化

【小型バス】

- 定時定路線の再考
- フリー乗降ゾーンの導入
- 運行曜日の拡充

森林創生
宍粟
森と共に生きるまち
しそう

運行開始から２年　見えてきた課題②

■小型バスが再編の成否を左右！

週5日運行	
1.5人以上	3路線
0.8人以上～1.5人未満	3路線
0.8人未満	
合　計	6路線
※バスが初めて運行された路線	2路線

週1日～週2日運行	
1.5人以上	1路線
0.8人以上～1.5人未満	2路線
0.8人未満	15路線
合　計	18路線
※バスが初めて運行された路線	18路線

※　平成29年バス事業年度の利用実績に基づく数値、循環バス路線は含まない。

（参考）

1.5人以上	更なる利用人数の増加に向けて増便も検討する路線
0.8人以上~1.5人未満	当面は現状を維持し、基準人数の達成に向けて利用促進に力を入れる路線
0.8人未満	抜本的な見直し、または必要性を検討する路線

森林創生 宍粟 森と共に生きるまち しそう

運行開始から２年　見えてきた課題③

■小型バスの機動力を活用する仕組みづくり

１．バス運行中に経路周辺の防犯パトロール

２．集落からの貨物（農産物）の集荷

３．集落への生活用品、食料品の配達

↓

バスに**乗る**　から　バスを**使う**　へ

↓

人口減少対策＝バスの確保・維持

森林創生 宍粟 森と共に生きるまち しそう

最後に・・・

バスを使う文化づくり

　公共交通だけでは、すべての利用者のニーズを満たすことはできない。

　少しの不便で使わないなら、人は離れ、次の世代には残らない。今が将来につながる３年間である。

　生涯生まれ育った地域で生活するためにも、バスを使う文化づくりを進める。

次の世代に**バスを残す責任**がある。

森林創生 宍粟 森と共に生きるまち しそう